

## みんなで応化会を育てよう

応化会会長 田村 弘三郎

錦秋の候 会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

併せ、日頃は応化会に格別のご理解とご支援を賜り誠に有り難うございます。紙面をおかりしまして厚くお礼を申し上げます。

私こと、去る六月十七日立命館大学・応化会第七回定時総会におきまして皆様のご承認を頂き引き続き応化会会長に就任することになりました。もとより浅学非才の身ではございますがご期待に添えるよう微力ではありますが努力し、応化会の発展に尽力してまいりたいと存じますのでご支援の程よろしくお願い申し上げます。

恒例によりまして、会長就任のご挨拶を申し上げます。

この度、はからずも三期続いて会長の重責を担うことになり改めて身の引き締まる思いがいたします。私の在任、六年間を振り返ります時、嬉しいことに私が常に誇りとし、心の支えとしてきました

母校・理工学部が社会の変革に先駆け素晴らしい躍進を遂げ、各界から高い評価を受けていることとございます。今にして思えば日本の社会制度や仕組が変わろうとしている時代に、時代を先取りした新しい大学を具現化させる第四次長期計画に基づき理工学部発祥の地、また多くの学友が育ち、馴れ親しんできた衣笠学舎からびわこ・くさつキャンパスに学舎を移し教育・研究の環境整備、設備の拡充、加えて開かれた大学として地域への参画、産業界への連帯を

深め、研究を支援する総合理工学研究機構を組織するなど二十一世紀を担う教育・研究機関として新生したことでございます。更には経済・経営学部と融合を図り、多様な社会ニーズに応え文理融合大学と位置づけ進展していることとでございます。また一昨年、理工学部は幾多の変遷を経て六〇周年を迎え、理工学部・記念校友大会が開催されました。私は大会に出席し大南正瑛前総長の「二十一世紀のBKCの展望・世界の中の大学をめざして」の講演を拝聴し、大学の果たす役割や躍進を改めて心強く思った次第です。このように、理工学部の躍進を身近に見聞し、学園の催しにも参加させて頂き、応化会事業の重要性を痛感いたしました。

さて、日本は厳しい経済再生の真つただ中にあります。「構造改革なくして経済の再生はない」として政府は国民に痛みを伴う聖域なき構造改革に取り組んでおり、不良債権の処理など金融機関にとっても、中小企業を始め産業界にとっても厳しい日々が続くものと考えられます。今こそ、経済再

生の原動力として成長が期待される情報技術や環境分野等での技術革新を進め、一日も早い市場の活性化と安定した経済社会の構築が急務でございます。

皆様には拠り所として、素晴らしい母校がございます。「百聞は一見にしかず」と申しますが、この機会に母校と積極的に交流を図り、自らの社会生活を豊かにし、ご活躍を頂きたいと存じます。また応化会の事業に参加し、みなさんの手で応化会を育てて頂きたいと存じます。

お陰で応化会も年を重ね、来る平成十五年には二〇周年を迎えます。この節目となる二〇周年を皆様と一緒にお祝いし、懇親を深め、更には応化会の躍進を誓いたいと存じます。ご案内を申し上げます。

最後に、立命館大学の益々の躍進と皆様のご健勝・ご活躍を心から祈念し、応化会に一層のご理解を賜りますようお願いを申し上げます。簡単ですが会長就任の挨拶といたします。



# 新世紀を迎えて

応用化学系学系長 松岡政夫



平成十三年度応用化学系学系長として応化会会員の皆様方にご挨拶申し上げます。

稀にみる高支持率の小泉新内閣が誕生し、景気の回復が待たれる今日このごろですが、会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。

最近は少子化による受験者人口が減少するなかで、私学として生き残るための懸命な努力が立命館

大学でも行われております。幸いなことに立命館大学は昨年めでたく一〇〇周年を迎えることができ、立命館アジア太平洋大学の開学によって総合学園としての立命館が社会的にクローズアップされ

たことは誠に喜ばしいかぎりであり、新世紀を迎えてますます躍進する理工学部状況をここに紹介いたします。

施設面ではBKCCキャンパス内に学びと成長を支援するためにセミナハウス・エポック立命二十一が五月にオープンしました。ここでは講演会などに利用できるコンベンションホール、会議室、交流スペースの機能を持つエントランスラウンジのほか宿泊施設も完備しており、これからの多目的利用が期待されます。

教学面では大学院理工学研究科に区分制博士課程（前期課程二年、後期課程三年）の総合理工学専攻に加えて、入学定員二〇名を持つ一貫性博士課程（五年）のフロンティア理工学専攻が四月からスタートし、優れた研究・技術者

の育成を目指しております。九月からは留学生を対象とし、英語で講義を行う国際産業工学特別コース（入学定員二〇名）がスタートします。さらに、来年度からの情報学専攻新設の論議が活発に行われております。

応用化学系では昨年、化学生物工学科の外部評価が実施されたのに引き続き、今年には応用化学科が外部評価を受ける予定であり、カリキュラムや教育施設、また、教員のアクティビティーが厳しく評価されます。これに関連して日本技術者教育認定機構（JABEE）の評価を受けることを検討している学科もあり、これからは教育機関も外部からの評価を受け、それによって大学のステータスが評価される時代になりつつあります。

最近、大学生の学力低下の問題がマスコミ紙上を賑わしておりますが、入り口を広くすればするほど出口の就職が問題となります。最近では、社内における教育研修を何年もかけて実施するような会社はなくなり、即戦力となる新入

社員が求められております。応用化学系では学びのレベルがどの程度であるかを評価するために学部三回生を対象に到達度検証試験を今年から実施する計画で準備を進めております。試験の実施に対しましては教学創造枠分のTA予算が計上されており、また、この予算は授業に関するホームページ作成・維持管理、大規模講義での演習・採点補助、低回生支援企画補助などにも使用できるといふきめ細やかな配慮がなされております。進

生は成績も二極化する傾向にあり、学生全体のレベルアップが大学のステータスをあげるための重要な課題と考えられます。応用化学系の教員一同、社会人として指導的な役割が果たせる学部生、院生を育成すべく最大限の努力をいたしておりますので、これからも応化会会員の皆様方のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますとともに



これからのご発展を祈念いたします。

応化会顧問

# 大田雄三様

のご冥福を心からお祈りします



## 大田雄三君追悼の記

木村 碩志

(昭和二十七年卒)

ン化合物をメインにした化学合成品製造の分野に着目し、果敢に挑戦して企業の基礎を確立されました。

続いて、プラスチック関連の

「紫外線吸収剤、光安定剤、ウレタン発泡用触媒等」、環境保護・

公害防止関連の「オゾン層破壊を

もたらす有機溶剤系洗浄剤の使用を削減する技術、湖・河川の富栄養化の原因となる雑排水中のリン

化合物の除去技術、湿式脱硫触媒等」また、原子力産業では「放射

性元素の除去技術」等々二十世紀に向けて最も関心が高く、且つ

グローバルな課題に取り組んでこられました。

一九五八年に戸田市にも工場を建設され、一九六三年には商号を

城北化学工業株式会社に変更され、長年培った技術を駆使して世

の中に貢献しうる企業に育て上げられました。さすが、大田社長の

先見の明には常々敬服し、強く感銘を受けてきた次第です。

この時期に、突然のご逝去は誠に残念の極みでしたが、大田社長の

の亡き後は杉田研究室門下生の戸谷順造専務以下十数名の後輩社員

が遺志を継いでくれると信じてい



ます。

故大田社長にはご夫人孝子様との間に三人のお子様がおられ、それぞれご立派に社会人として活躍

されていると聞いております。

三男の友昭氏が同社に勤務されておりましたが、社長逝去の後を

受けて、一月の役員会で代表取締役社長に就任された由、誠に喜ば

しい事でありませう。

戸谷専務以下後輩の諸兄もこの若い社長を盛り立てて、ますます

発展されますようお祈り申し上げます。

我が母校立命館大学も学園関係者のご努力により、近年目覚まし

い発展を遂げています。衣笠キャンパスをはじめ、BKIC、立命館

アジア太平洋大学の開設等々素晴らしい学園に成長して参りま

した。故大田社長には何かと母校のためにご尽力戴きました。草葉の

陰で、この母校の発展を喜んでおられることと思ひます。

最後に恩師故杉田嘉一郎先生が常に申されていた言葉があります。

「冬来たりなば、春遠からじ」

英国の詩人シェリーの「西風に寄する歌」の一節です。如何なる悪

条件も勇気と努力をもって克服し

つつ、耐え忍んでいけば、必ずや

陽光の輝く日がやって来るであらう。

貴君は正に先生の申されていたこの言葉を実践してこられました。

これからは、どうぞ安らかにお休みなさい。

薬学博士)



城北化学工業(株)代表取締役社長 大田雄三君が二〇〇一年一月二日午前七時五十分逝去された旨、同社の戸谷順造専務(昭和三十一年化学科卒)から連絡を受け、思わず我が耳を疑い愕然と致しました。

であり哀惜の念に耐えませぬ。振り返れば、大田雄三君と私は立命館大学理工学部化学科の第一回卒業の同期生として五十年近い付き合いでした。大田雄三君は卒業後間もなく、東京都板橋区に城北化学工業所を

独力で設立されました。今で言えばベンチャービジネスの走りといえなくも言いましょうか、大手化学企業があまり手をつけていない有機リ

リーダーであっただけに、誠に残念

が遺志を継いでくれると信じてい

# 我社の創立者また 私の良き大先輩を偲ぶ

戸谷 順造

(昭和三十九年卒)

『我は湖の子 放浪の

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざなみの

滋賀の都よ いざさらば』

生前の大田雄三社長は何か事があると必ず『琵琶湖周航の歌』を歌われました。

前社長は、現立命館大学琵琶湖草津キャンパスに程近い能登川町で昭和五年に生誕され、陸軍幼年学校を経て彦根中学校を卒業されるまでここで青春を過ごされました。近在で鮎・鮒等を捕りまた鴨を捕獲し、とやかな暮らしの想い出、幼年学校時代の機関銃被弾等苦しい体験等よく聞かせていた

だきました。

前大田雄三社長は、立命館大学

では室伏教授の元で油脂に関連する卒研を専攻され、また杉田教授の下で軟式(準硬式)野球部の設立に努力したと話されました。前社長のご尊父は滋賀能登川で油脂工場を経営されておられたそうです。当時から化学に興味を持って

おられたのでしよう、搾油されたままの油は熱に強く、リン脂質を除いた油は直ぐに劣化してしまふことに不思議な思いをもっておられたそうです。この事が卒研で油脂を選ばれた一生涯の仕事として有機リンの世界に踏み込まれた礎になったと思います。

大学卒業後大阪にある化学製品製造会社に勤務されましたが倒産しました。丁度、塩ビがアメリカから上陸し生産が始まってしばらくの頃で、これに必要な有機リン化合物は全てアメリカから輸入され

ていました。これらの状況から、昔から夢に描いておられた有機リン化合物の製造を、塩ビ用安定剤会社が集まる東京で始めたとうよく話されました。

昭和三十二年東京都板橋区のある工場のガレージを賃借りし二〇Lのホルベン(フラスコ)で第一号の亜リン酸トリフェニルを合成し、自らリヤカーで一〇kmも離れた得意先まで運んだのが事業の始めだったとよく聞かせていただきました。この亜リン酸トリフェニルは、現在も当社の主力製品として頑張っております。

昭和三十三年には、現在当社の研究所が在る埼玉県戸田市に土地を手当てされ株式会社としてスタートされました。

ここで大変恐縮ですが、大田先輩と私との出会いを少し述べさせていただきます。

私は、有機合成が好きで杉田教室を志願しました。卒研テーマ

は、なんと故杉田嘉一郎教授専門のステルベスリトル全合成に関するテーマではなく「お前は有機リン化合物をやれ」と言われま

やむなく図書館でバイルスタインを調べました。亜リン酸トリフェニルを見つけました。この化合物の合成を出発点としました。この頃杉田研究室に月に一度は必ず訪れるポストンバッグを持った開襟シャツの人がおられました。杉田教授はなにもおっしゃらないので、どこの人か知りませんでした。昭和三十七・八年頃のことです。さて就職活動というとき、杉田恩師から「東京で先輩が有機リンをやっているから見て来たらどうや」と言われ夏休みを利用して今

で言う会社訪問をすることになり、埼玉県戸田市(当時、戸田町)の本社兼工場を訪問しました。ここで先のポストンバッグの先輩にお会いしましたこの出会いが私の一生を決めることになりました。入社当日から企業の一員としての仕事をさせていただいたことは、生涯忘れません。ありがとうございます。最後に失礼ではございますが、安らかに眠りください。

専務取締役

(城北化学工業株式会社)

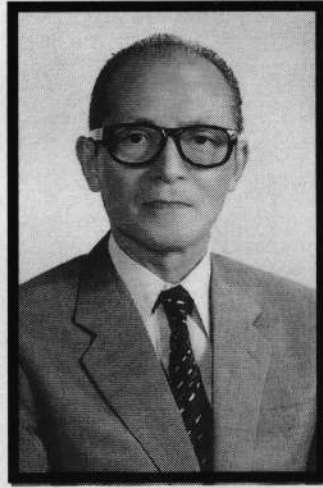
以後この偉大な社長の元、活躍製品・休暇製品・睡眠製品等を合わせ千種類以上の化合物を世に送り出す事ができました。最後に、故大田雄三社長は、「人生は、人を観る目と先を観る



応化会顧問

# 尾池耕三様

のご冥福を心からお祈りします



# 尾池耕三兄を偲んで

鎌田 浩 二一  
(昭和二十三年卒)

去る六月二十八日、尾池兄の突  
然の訃報に接して耳を疑いまし  
た。兄が入院されたことは知って  
おりましたが、自分の健康には人  
一倍留意していたあの元氣な兄が  
こんな早く亡くなるとは想像も  
していなかっただけに、非常な衝  
撃を禁じ得ませんでした。  
兄との付き合いは、太平洋戦争  
末期の昭和二十年春、専門学校化  
学工業科に入学した時からです。  
兄と同じ一組でした。背が高く、  
精悍な容貌で、謡曲で鍛えたよく

兄は慈愛溢れた眼差しで笑って受  
け流してくれていました。私は専  
門学校を卒業して、大学に進み、  
更に社会人になってからも家が近  
所でしたのでよく兄の会社を訪問  
していました。今にして思えば兄  
は友人を選択する基準を何か定め  
ていたように思います。兄自身の  
持っていない何かを持っている人  
物を友人に選んでいたのではない  
かということですが、そして、それ  
は決して打算ではなく、心からの  
希求であつたと思っております。  
そうした中で最も強く私の記憶  
に残っているのは兄が自身の金・  
銀糸製造事業に乾坤一擲の勝負を  
賭けた、真空蒸着技術の導入に踏  
みきつたことです。  
その頃私は大阪でセロファンの  
販売をしていました、ある時、京  
都伏見の工藝指導所の技師からセ  
ロファンの巻取サンプルの要請が  
あり、持参しますとそこにはいま  
で見たこともない装置がありまし  
た。それが真空蒸着の試験設備  
だったのでした。その技師は、  
「金・銀糸の組合の人達が最近こ  
の装置を見学に来られました」と  
言われました。その話を兄にする  
と、兄は組合の人達の見学の話は  
全く知りませんでした。少し顔色  
を変えて、早速工藝指導所に聞き  
に行くことと私に話していましたが、



その後暫くして尾池工業を訪問し  
ますと、何と工藝指導所のその技  
師が兄の会社に引き抜かれていた  
のです。

その頃の金・銀糸は厚手のセロ  
ファンにアルミ箔を貼り合わせた  
ものを細かく裁断して作られてい  
たのですが、品質上に色々な問題  
があつて改良を迫られていまし  
た。その問題を解決する可能性を  
この真空蒸着技術が有していたの  
です。その技法を使うと軽くて光  
沢があり、風合いのよい糸が出来  
るのでした。

全く未知数のこの技術導入は尾  
池工業にとっては将に社運を賭し  
たものでした。兄の決断にはただ  
ただ驚きと敬服を覚えました。

兄は常日頃“運・勘・決断”  
が、自分の経営モットーだと語っ  
ていましたが、運を見逃さず、ま  
た、鋭い勘だけに頼らず、常に自  
分の眼で確認し、関連する情報を  
充分吟味・分析して、その上で決  
断を下していたと思います。前述  
の真空蒸着技術の導入も、私が齎  
した運を兄の鋭い勘で受け止めて  
的確な決断を下したわけです。更  
に、兄は優れた人材を採用し適所  
に配置し、あらゆる点に目配り  
し、人の和を心掛けていました。  
歩きながらもメモをとっていた姿  
や、枕元にもジャンル別のメモ帳  
を置いて思いついたことをメモし  
ているのだと語っていたことなど  
も、今鮮明に思い出されます。

ここにあらためて故人の思い出  
を辿り、会社や家族、更に母校や  
友人達に注いだ愛情溢れる人格を  
称えつつ、心からご冥福をお祈り  
する次第です。

合掌

# 尾池耕三氏をしのぶ

加藤 隆 康  
(昭和四十年卒)

尾池耕三氏(昭二十三年専門)  
は立命館大学在学中に現在の尾池

工業(株)の前身である(株)尾池商店の  
社長として父鋼之輔氏から引き受

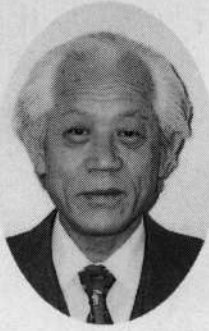
けられ、その後五十二年間（一九四七～一九九八）にわたって尾池工業（株）の社長として今日の隆盛を築き上げられました。

三年前、現社長の均氏に社長を譲られたのちも、関連会社十一社の代表取締役会長を兼務されて活躍されてきました。

お亡くなりになる寸前まで担当者に対して電話での指示、激励をされ、文字通り「仕事一途」に人生を過ごされた感があります。

一時期は社員の中に二〇名を越える立命館の同窓生を擁し、「立命館」と称して毎年会合を重ねていました。耕三氏は非常に健康に留意される方で、会合も野外で行われることが多かったように思います。

立命館大学にはことのほか愛着があったようで、校友会が開催する同窓会などには社員の中で「若い者はどんどん参加するように」と自費で購入された入場券を配られていました。勉強にも理解があり、社員の中から立命館の二部卒業生も数名を数えます。



私を含め、同窓生に途中入社者が数名いますが、私ごときが採用されたのも、多分同窓生であることとの配慮もあったのではと思っております。

京都の伝統産業である金銀糸を近代的な生産方法（真空蒸着技術）で確立し、その技術を他の産業界にとつても大きな貢献をされ、昭和六十三年には京都府産業功労者として知事表彰を受賞されていきます。

金銀糸に続いて、転写箔、包装材料、装飾材、農業材料、特に工業材料としては人工衛星から、車、情報関連機器への応用などあらゆる分野に採用され、今後さらに発展する可能性を秘めたこれらの技術の核を植えてくれた功労者ではないかと思えます。

外に向かつて京都の商工会議所、工業会、ライオンズクラブ等にもっと参加されては、との社員の言葉にも「君たちがもっとしっかりやってくれないか」と逆にねじ込まれたこともありましたが、道歩いている途中でも思いついたら「メモ」をとる。近くに電話があったらすぐにかける。というように常に頭を働かせている方でした。

趣味としては謡曲、将棋、特に将棋は一時間に三局はやりたいほどで、相手をするとよく「早く早く、もう詰んどる」と忙しかつたのを覚えていきます。

また、ご家族にも気配りをされ、晩年は奥様のお体が思わしくなかつたこともあって、よくお買い物にもでかけられたとお聞きしております。

後任の社長もすでに実務はしっかり耕三氏の遺志を引き継がれております。

社員一同一九九八年となって更なる発展を目指しますので立命館大学にゆかりのある会社としてご支援ください。

## 応化会通信

### 総会だより

本年六月十七日（日）午後三時より京都タワーホテルに於いて第七回総会が開催された。三名の名誉会員及び田村会長ほか六十五名の会員が出席し、平成十二年度事業及び決算報告、役員選出、平成十三年度事業計画及び予算などの審議が行われた。松田幹事の司会で開会し、まず過去三年間に逝去



終身会費制は平成十三年三月及びそれ以降の卒業生に適用し、平成十三年三月以前の卒業生は従来通り年会費制とすることが承認された。

四、香山役員選考委員長より、田村氏に引き続き会長をお願いしたい旨の提案説明がなされ、承認された。顧問、副会長、及び会計監査の選出について松田幹事より幹事会での審議経過が説明され、原案通り承認された。以上の役員を含む全役員名については、別表を参照されたい。

五、平成十三年度の事業計画と予算案に関する提案説明が小島、加藤幹事からなされ、質疑の後、承認された。

六、松田幹事より会則の一部変更について提案があり、承認された。また、会長からの緊急提案として、岸氏に感謝状が贈られた。

最後に新役員が一同に紹介され、代表して田村会長から挨拶が述べられた。総会終了後、同会場にて本学OBでNHKアナウンサー川端義明氏による講演会が開催された。その後、懇親会が開かれ、二時間あまりにわたって会員が親睦を深めた。

#### 総会での議事内容

一、松田幹事より、前回総会以降の応化会の経過、立命館大学理工学部同窓会連絡協議会、各種委員会などについて報告された。

二、小島幹事より平成十二年度事業報告、加藤幹事より平成十二年度決算報告が行われ、会計監査報告の後、承認された。

三、松田幹事より年会費に関する提案説明がなされ、審議の末、

# 健康長寿

篠原長政

(昭和四十三年卒)

高橋玲爾先生の研究室で、電気化学分析について勉強させていただきました。研究の方は「 $\pi$ 電子系化合物の非水ポロログラフィー」、特にプロトン付加反応の影響について厳しく御指導いただき、少しばかり頑張ったつもりでいしましたが、「この程度で研究を行った気になってはいけない」とおっしゃったことを覚えています。

現在では、「電鑄」(めっきでモノをつくる技術)が私の専門だと周りの人に決め付けられています。この電鑄技術は、例えば極少量の試料を反応、分離、検出などの化学分析する際に必要なマイクロチャンネルの作製にも利用されています。微小化学分析システムの研究に、松田十四夫先生、白石晴樹先生の研究に少しでもお手伝いできればと思っています。

## 〔平均寿命〕

就職については「明日の十両より今日の一両」という考え方もある」との先生のお言葉で踏ん切りがついて、余り勉強していなかった電気化学の応用分野である「めっき」の研究室に勤務しました。

ある時、めっき現場から、成分の分析ができないと開発されためっき液の実用化はできないという要望がありました。が、学生時代の分析化学の勉強、特に永井外代士先生講義の「イオン平衡」が直接役に立ちました。これは、すでに数十年前のことですが、学会(協会)ではコロンプスの卵みたいなものと少しは褒めていただいたことを思い出します。

例えば現在七十歳男性の場合、平均余命は十三・八九年となるようです。平均寿命と自分の年齢とを比較(差を計算)するのは的を得ていない訳です。

医療技術などの進歩が続けば年々平均寿命は延びて、二十一世紀の前半にも百歳を越え、後半には百二十歳に到達すると計算する人がいます。中には、年金制度崩壊や医療費、住宅の耐久性の問題などを心配する人も出てきています。

## 〔健康寿命〕

健康寿命とは、痴呆や寝たきりにならないで、健康で元気に生活できる期間を指し、二〇〇〇年六月に初めてWHO(世界保健機構)が発表した指標です。世界第一位は日本で、七四・五歳だそうです。

ある講演内容の紹介ですが、三十年程前、脳卒中日本一であった長野県は、PPK(ピン・ピン・コロリン)運動をして、現在は長寿日本一(女性第一位は沖縄県)、それでいて医療費が最も少ない県になりました。死ぬ直前までピンピンでいたら、費用もかからないことを証明されたということです。そして、元気で長生きしている人たちの共通点は、一に生涯現役であること、二に幾つになっても好きなことに夢中になる、新しいことに挑戦をするこ

と、なんだそうです。よく分かる気がします。そして更には、テレビなどで紹介されているように、バランスのとれた食生活も重要であると思います。

## 〔微量元素と健康〕

山極著の「サルはなにを食べてヒトになったか」の頁をパラパラと捲っていると、類人猿は動植物を含めた雑食性で、多種類の食物で栄養のバランスをとりながら摂食していて、また可食部に含まれているタンパク質やミネラル(微量元素)の量は、植物の種類や葉、茎、花などの部位で大きく異なっているけれど、ある地域のゴリラは、ある種の植物は葉だけを、別の種は樹皮だけというように栄養素の含有率の高い部位を選んで食べているそうです。必要な栄養素を自分で摂取する能力が備わっているのだと思います。

人間の場合、テレビで放映していましたが、お酒を飲んだ後ラーメンを食べたくなるのは体(脳)がブドウ糖とナトリウムを要求しているのだそうで、人間も少しは能力があるけれど、基本的には情報を収集しないと分からない程この能力分野では退化しているのではないのでしょうか。

比較的摂取量の多い必須ミネラルと呼ばれる、Na、K、Ca、Mg、Pなどの他に、一日の摂取量は微量であるが健康に重要なZn、Fe、

Cu、Mnの微量元素があります。

例えば、体内に入った異物や毒物を除去する酵素などは、金属イオンが重要な働きをしているそうです。亜鉛が不足すると、味覚能力が落ちる、風邪を引きやすい(ウイルスの増殖を抑えられない)、傷が治り難いなどの症状を引き起こす可能性が大きいとされています。米国では錠剤の販売が許可されていますが、亜鉛欠乏の病人でない限り、供給源としての牡蠣、カニ、レバー類、ナッツ類などを食する方がよいと思います。

## 〔おわりに〕

人間の寿命を縮める働きを持つ「短命遺伝子」をベンチャー企業と東大の研究グループが発見し、特許を取得してすでに長寿薬の開発に着手しているそうです。遺伝子を診断して、今にも遺伝子で治療する時代が来そうですが、一方で、遺伝子診断により、ある病気になりやすいデータがあれば、その人に合った栄養補給の方法について、個人レベルで情報提供ができるだろうともいわれています。食事は精神的にも重要であり、食事から、五感(味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚)を使っておいしく食べ、さらに、新しいことに挑戦していきたいと思っています。

(京都市工業試験場勤務)

# 「UBC 滞在記」

澤 村 精 治

(昭和四十九年卒)

昨年九月末から今年一月まで、大学の学外研究員制度で、カナダのバンクーバーにあるプリティッシュ・コロンビア大学（略称UBC）に滞在した。この大学は、一八七七年創立で、学生数五万人（full timeは三・三万人）を擁し、立命（三万人）を超える大きな総合大学である。「大橋巨泉の店」で有名なバンクーバー市の中心からバスで三〇分ほど離れた半島の先端にあり、コヨーテの住む森で囲まれたキャンパスの敷地は約四km<sup>2</sup>と衣笠キャンパスの三二倍、我がびわこ・くさつキャンパスの七倍という広大な敷地を持っている。キャンパスの周辺に教職員と学生用のアパートが多数あり、小生は運良く出発前にこの教職員用アパートの入居許可が届き、おかげで快適なキャンパス生活をおくることができた。

UBCという名前は、すでに「立命館・UBCジョイントプロ



グラム」という名称でご存じの方も多いと思う。毎年、立命館から一〇〇名の学生が八ヶ月間プログラムに基づいて研修する大学である。そのための学生アパートRitsumeikan Houseもキャンパス内にあり、立命館の職員が一名常駐している。現地の学生も同居しており、彼らにとっては入居希望者が多い人気の高いアパートだそうである。おかげでキャンパス内での立命館の知名度は結構高く、初

めて会う人との挨拶には、あのアパートの大学と言うことで通用する。

立命からは、その他に文社系学部から一、二名きているらしいのと、理工学部からは前期課程の大学院生が半年の予定で三名が滞在していた。たまたまそのうちの一名の現地の先生が小生のアパートの隣人であることがわかり、せっかく立命館を離れた彼の地でゆつくり羽を伸ばそうと思っていた

が、結局立命館の学生さんとお近づきにならざるを得ない羽目になってしまった。彼女たちにとっても事情は同じだったでしょう。キャンパス広しといえども案外狭いものです。

カナダの公用語は英語とフランス語であり、すべての公文書や表示がこの二言語で併記されているが、UBCではほとんどフランス語を話しているのをきくことがなかった。むしろ中国語が氾濫し掲示板も至る所に中国語が見られた。バンクーバーでの中国人の比率はかなり高いようである。何年前だったか香港の中国への返還も影響しているのであろうか。後述する研究室の学生は香港からの移住組らしく、育ったのはバンクー

バーであるが大学入学とともに、家族は香港に戻って自分一人がバンクーバーの家に残っている由。卒業したら香港に戻るのだそうである。

## 研究室のこと

小生の滞在中の研究室は、ボスのY. Koga先生はじめ、カナダ人の学部生が二名、中国人（香港）の学部生一名、海外での研修が学

位を得るための必修要件だということである。博士課程生一名、それに小生の六名である（写真筆者右端）。ボスのKoga先生は日本人？で東京大学卒業後、UBCの大学院を修了し、カナダの民間企業に勤められたあと、UBCに戻ってこられた方でもなく定年になろうという文字通りのボスである。小生の前後にも頻りに世界中から滞在者が来ているようで、部屋の中に張られたたくさんの写真がそれを物語っていた。溶液の熱物性を中心小角散乱など溶液物理化学に関する実験装置を自作しながら研究を進めている研究室である。Koga先生とはすでにいくつかの共同研究を始めていたので、じつ

り議論できる機会と新たな装置設計のノウハウを得たいと思つてやってきた。実験室は個研究室を含めて四室有るので結構広い。しかも、四室が隣同士ではなく離ればなれにあるので、よほどの用事がなければ出かけて行くことがなく、みんながそろって顔を合わせるのは、ゼミの時間ぐらいである。人口密度の高い立命では考えられない経験である。

## UBCのベストシーズン

九月末にUBCへやってきて最初にされた質問は「なぜ今頃きになったのは、十月に入ってから降りが出し、久しぶりの雨だと感傷的な日はばかりで太陽が恋しくなる天候になってきた。結局日本に帰るまでこんな曇りと雨の天候で、最初にされた質問の意味を存分に実感してきた。バンクーバーへ訪問される諸兄は、是非とも春夏外研究で得た最大の収穫です。

# 我社の創立者また 私の良き大先輩を偲ぶ

戸谷 順造

(昭和三十九年卒)

『我は湖の子 放浪の

旅にしあれば しみじみと

昇る狹霧や さざなみの

滋賀の都よ いざさらば』

生前の大田雄三社長は何か事が  
あると必ず『琵琶湖周航の歌』を  
歌われました。

前社長は、現立命館大学琵琶湖  
草津キャンパスに程近い能登川町  
で昭和五年に生誕され、陸軍幼年  
学校を経て彦根中学校を卒業され  
るまでここで青春を過ごされまし  
た。近在で鮎・鮒等を捕りまた鴨  
を捕獲し、と和やかな暮らしの想  
い出、幼年学校時代の機関銃被弾  
等苦しい体験等よく聞かせていた

だきました。

前大田雄三社長は、立命館大学

では室伏教授の元で油脂に関連す  
る卒研を専攻され、また杉田教授  
の下で軟式(準硬式)野球部の設  
立に努力したと話されました。前  
社長のご尊父は滋賀能登川で油脂  
工場を経営されておられたそうで

す。当時から化学に興味を持って  
おられたのでしよう、搾油された  
ままの油は熱に強く、リン脂質を  
除いた油は直ぐに劣化してしま  
うことに不思議な思いをもってお  
られたそうです。この事が卒研で油  
脂を選ばれたまた一生の仕事とし  
て有機リンの世界に踏み込まれた礎  
になったと思います。

大学卒業後大阪にある化学製品  
造会社に勤務されましたが倒産し  
ました。丁度、塩ビがアメリカか  
ら上陸し生産が始まってしばらく  
の頃で、これに必要な有機リン化  
合物は全てアメリカから輸入され

ていました。これらの状況から、  
昔から夢に描いておられた有機リ  
ン化合物の製造を、塩ビ用安定剤  
会社が集まる東京で始めたとき  
話されました。

昭和三十二年東京都板橋区の中  
の工場のガレージを賃借りし二〇  
Lのホルベン(フラスコ)で第一  
号の亜リン酸トリフェニルを合成  
し、自らリヤカーで一〇kmも離れ  
た得意先まで運んだのが事業の始  
めだったときよく聞かせていただき  
ました。この亜リン酸トリフェニ  
ルは、現在も当社の主力製品とし  
て頑張っております。

昭和三十三年には、現在当社の  
研究所が在る埼玉県戸田市に土地  
を手当てされ株式会社としてス  
タートされました。

ここで大変恐縮ですが、大田先  
輩と私との出会いを少し述べさせ  
ていただきます。

私は、有機合成が好きで杉田教  
室を志願しました。卒研テーマ  
は、なんと故杉田嘉一郎教授ご専  
門のステルベスリトル全合成に  
関するテーマではなく「お前は有  
機リン化合物をやれ」と言われま  
した。しかも「課題は自分で見つ  
ける」と言うことでした。

やむなく図書館でバイルスタイ  
目を調べました。亜リン酸トリ  
フェニルを見つけました。この化  
合物の合成を出発点としました。  
この頃杉田研究室に月に一度は必  
ず訪れるポストンバッグを持った  
開襟シャツの人がおられました。  
大田雄三社長葬儀の折には、松田  
教授始め応化会の皆様、岩橋清先  
輩・木村碩志先輩始め諸先輩の厚  
いご配慮をいただいたことは故人  
も涙して喜んでおられることと思  
います。重ね重ね感謝申し上げます。

最後に失礼ではございますが、  
(城北化学工業株式会社  
専務取締役)

で言う会社訪問をすることにな  
り、埼玉県戸田市(当時、戸田  
町)の本社兼工場を訪問しまし  
た。ここで先のポストンバッグの  
先輩にお会いしましたこの出会いが  
私の一生を決めることになりまし  
た。入社当日から企業の一員とし  
ての仕事させていただいたこと  
は、生涯忘れません。ありがとうございます。

以後この偉大な社長の元、活躍  
製品・休暇製品・睡眠製品等を合  
わせ千種類以上の化合物を世に送  
り出す事ができました。

最後に、故大田雄三社長は、  
「人生は、人を観る目と先を観る



# 卒業パーティー

## 平成十二年度卒業式

平成十二年度の卒業式が去る三月二十一日にBKCCにて行われ、化学科一・二四名、生物工学科八名、合わせて二一・二名が卒業生として巣立っていきました。夕方には恒例の卒業・修了記念パーティーが、ホテルグランピア京都にて開催され、応化会会長を迎える中、和やかにかつ盛大に皆の門出を祝いました。先輩諸氏におかれましては、この新しいメンバーを今後とも宜しくお願いいたします。



### 事務局だより

助けて下さい迷いっ子を

○応化会ニュースを皆様にお送りしていますが、毎回転居先不明の迷いっ子が百数十通もドサツと事務局に舞い戻ってきます。応化会会員名簿でも、いったん住所不明になりますと、後からの調査は殆ど不可能です。

○応化会・企画運営委員会で近頃

「彼は今どうしているかなあ」と、名簿を繰って貴方を捜される級友が必ずおられます。転居されました場合は、どうぞ事務局まで新住所をご連絡下さい。

事務局を気軽に

ご利用下さい

ゴルフ、山歩き、写真趣味等の活動を、活発に行っています。ご希望は応化会事務局で受け付けています。

○同期会・クラス会等のご計画に事務局で出来ることはご協力します。

○気軽に立ち寄って歓談できる場所として、応化系事務室の応接室がご利用できます。

### 応化会事務局

受付

月・水・金 十時～十六時

電話

〇七七―五六―二六五八

FAX

〇七七―五六―二六五九

### 年会費納入への

### 協力お願い

平成十三年度年会費（平成十四年三月三十一日迄）二千元を納入下さいませようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に関係なく平成十三年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成十三年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

（注・平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。）

### 編集後記

今年は3年に一度の応化会総会が京都タワーホテルにおいて盛大に開催されました。総会の模様は「同窓会通信、総会だより」の通りで、会長は引き続き田村弘三郎氏にお願いすることとなりました。その他の役員諸氏共々3年間ご苦労さまですが、よろしくお願ひします。

総会におけるZエヌアナウンサー、川端義明氏の講演は、選挙開票速報の裏話ということで定期的に参議院選挙前であり、非常に興味をもって聞くことができ、たいへん有意義でした。

昨年の杉田先生の計報に続いて今年も当応化会の顧問でありました、大田雄三、尾池耕三両先輩の計報をお聞きして驚いております。それぞれの追悼文をご寄稿頂き有り難うございました。また御両名のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

なお、新任の先生も2名着任され、応用化学系の拡充がはかられて、益々心強く感じられ嬉しい限りです。

（香山）

応化会名誉会員

(敬称略)

石井 猛 岩崎 弘通 岡本 勇三 北村 清 木下 恭介 塩出 十一 鈴木 啓三 高橋 玲爾 竹内 良夫 立花 精 土屋 正夫 永井外代士 橋谷 博 林 隆俊 林 眺 深海 浩 山本 善史 山本 善史 山下大二郎 三代澤良明 松田 二郎 渡辺 明

応化会役員名簿

(敬称略)

顧問 大原八十八 (30年卒) 吉田 巖 (27年卒) 会長 田村弘三郎 (31年卒) 副会長 三上 正勝 (37年卒) 谷口 吉弘 (40年卒) 東 正弘 (41年卒) 立木 隆 (63年着任) 常任幹事 岸 要 (25年卒) 香山 彰朗 (31年卒) 上原 正巳 (34年卒) 松尾 篤治 (38年卒) 北尾 舒彦 (39年卒) 中村 尚武 (41年卒) 森崎 久雄 (平5年着任) 篠原 長政 (43年卒) 木越 俊雄 (46年卒) 前川 昭 (52年卒) 木本 衛 (60年卒) 目片 康人 (61年卒) 田口 肇 (62年卒) 小林 久人 (平2年卒) 目片 秀明 (平4年卒) 山田 修司 (平11年卒) 松田十四夫 (38年卒) 白石 晴樹 (47年卒) 澤村 精治 (49年卒) 藤田 典久 (51年卒) 岡田 豊 (54年卒) 玉置 純 (平7年着任) 高木 一好 (平12年着任) 小島 一男 (52年卒) 加藤 稔 (院62年卒) 花崎 知則 (平1年卒) 久保 幹 (平8年着任) 富田 耕一 (27年卒) 岡本 朗 (32年卒)

▼年度幹事▲

専門学校

昭和18年卒

新谷 利保 野村祐三郎 岩橋 清 目片 昭芳 山田吉之助 山田 益三 福見 幸司 今達 韋治 竹内 良夫 八木 永治 奥(安井)悦 幸男 幸雄 岸 要 九鬼 敏隆 榎 年雄 岡田 克巳 宇野 光造 九鬼 敏隆 八木 永治 東 龍夫 伊藤 徳紹 池田 茂 上原 正巳 寺井 良平 山本 好春 寺田 卓二 藤井 博 山本 修三 梶田 晋三 天田 健治 加納 修 新谷 利保 野村祐三郎 岩橋 清 目片 昭芳 山田吉之助 山田 益三 福見 幸司 今達 韋治 竹内 良夫 八木 永治 奥(安井)悦 幸男 幸雄 岸 要 九鬼 敏隆 榎 年雄 岡田 克巳 宇野 光造 九鬼 敏隆 八木 永治 東 龍夫 伊藤 徳紹 池田 茂 上原 正巳 寺井 良平 山本 好春 寺田 卓二 藤井 博 山本 修三 梶田 晋三 天田 健治 加納 修

〈一部化学科〉

27年卒 岩崎 弘通 富田 耕一 磯島 文雄 山上 満 香山 彰朗 岡本 朗 磯野(田村)貴美子 花澤 明 久保 繁夫 佐々木 豊 近藤 照雄 大谷 芳享 松尾 篤治 金川 義孝 寺石 昌次 西原 昌次 野田 博之 伴野 清 篠原 長政 岡村 昭信 村上 俊男 木越 俊雄 木村 俊久 宮地 淳 白石 晴樹 寺石 雅和 澤村 精治 本庄 秀一 米澤 忠弘 松本 浩一 久保田和孝 前川 眞也 河村 吉雄 川澤 豊 岡田 豊 坂本 隆 浦田 雅文 松田 信之 河野 宏彰 川内 彰彦 福島 泰人 野口 剛 古川 博一 木本 衛 長谷川圭一 菊池 英知 目片 康人 田口 肇 岡田 淳 坂根 正恭 栗津 尚之 大山 良隆 小林 久人 中村 俊博 染谷 啓 中村 寛 桐村 秀明 目片 芳樹 西山 登 末光 富雄 草野 武義 野阪 智弘 宮武 公一 村山 雅章 磯貝 秀人 岡部 直樹 武田 周子 楠本 忠司 山田 佳博 駒 大輔 吉場 一真 若園 恵一 小池 竜一 平本 豪志 山田 修司 宇野健二朗 籠橋福太郎 網本恵美子 川勝 論

企画運営委員会

委員長

副委員長

委員 東 正弘 (41年卒) 中村 尚武 (41年卒) 上原 正巳 (34年卒) 松本 幹生 (38年卒) 篠原 長政 (43年卒) 村上 俊男 (45年卒) 小島 一男 (52年卒) 前川 昭 (52年卒) 田口 肇 (62年卒) 小林 久人 (平2年卒) 目片 秀明 (平4年卒)

応化会二ユース編集委員会

委員長

委員

香山 彰朗 (31年卒) 岸 要 (25年卒) 北尾 舒彦 (39年卒) 澤村 精治 (49年卒) 森崎 久雄 (平5年着任) 藤田 典久 (51年卒) 岡田 豊 (54年卒) 玉置 純 (平7年着任) 高木 一好 (平12年着任) 木本 衛 (60年卒) 目片 康人 (61年卒)

名簿管理委員会

委員長

委員

岸 要 (25年卒) 木村 一雄 (22年卒) 宇野 光造 (27年卒) 岡本 朗 (32年卒) 北尾 舒彦 (39年卒) 荒木 武彦 (43年卒) 白石 晴樹 (47年卒) 前川 昭 (52年卒) 目片 康人 (61年卒)

地域別活動推進委員会

委員長

三上 正勝 (37年卒) (委員は今後選出)

平成12年度(2000年度)事業報告

I. 諸事業

- 1) 第4回懇親ゴルフの開催(企画運営委員会) 2000年5月13日
- 2) 第3回比良徒行会の開催(企画運営委員会) 2000年10月28日
- 3) 第5回懇親ゴルフの開催(企画運営委員会) 2000年11月18日
- 4) 2000年3月卒業生名簿作成 2000年10月1日
- 5) 応化会ニュースの発行 2000年10月1日
- 6) 全会員への通信 2000年10月1日  
(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求ほか)
- 7) 在学生への通信 2000年10月1日

II. 諸会議

- 1) 幹事会
  - 第1回 2000年6月17日
  - 第2回 2000年10月14日
  - 第3回 2001年2月24日
- 2) 委員会
  - 応化会ニュース編集委員会
  - 企画運営委員会
  - 名簿管理委員会
  - 役員選考委員会

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2000年10月29日
- 2) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2001年3月21日

平成12年度(2000年)応化会会計決算報告

一般会計		
〈収入の部〉		
	予算額	執行額
前年度繰越金	1,726,391-	1,726,391-
会費(一般)	3,500,000-	2,320,000-
会費(学生)	2,100,000-	2,100,000-
寄付金	500,000-	161,000-
雑収入	10,000-	1,202-
合計	7,836,391-	6,308,593-

〈支出の部〉		
	予算額	執行額
総会開催費	0-	0-
事業等補助金	500,000-	24,890-
会議費	200,000-	113,277-
印刷費	1,000,000-	454,177-
郵送費	2,000,000-	1,044,787-
人件費	450,000-	339,500-
事務局費	50,000-	31,882-
雑費	100,000-	31,500-
拠出金(特別会計へ)	2,350,000-	2,350,000-
拠出金(連絡協議会へ)	100,000-	100,000-
在学生活動援助費	150,000-	150,000-
振り込み手数料	100,000-	59,960-
予備費	836,391-	0-
合計	7,836,391-	4,699,973-

次年度繰越金 1,608,620-

特別事業会計

〈収入の部〉		
	予算額	執行額
前年度繰越金	2,590,254-	2,590,254-
拠出金	2,350,000-	2,350,000-
名簿売上(一般)	10,000-	63,000-
名簿売上(学生)	10,000-	0-
名簿荷造送料	1,000-	73,500-
名簿広告掲載料	0-	0-
雑収入	1,000-	29-
合計	4,962,254-	5,076,783-

〈支出の部〉		
	予算額	執行額
名簿出版費	0-	0-
名簿荷造料	400,000-	302,359-
人件費	800,000-	446,360-
事務局費	500,000-	373,012-
予備費	3,262,254-	0-
合計	4,962,254-	1,121,731-

次年度繰越金 3,955,052-

平成13年度(2001年度)事業計画

I. 諸事業

- 1) 徒行会の開催(企画運営委員会) 2001年4月28日
- 2) 懇親ゴルフの開催(企画運営委員会) 2001年5月19日
- 3) 全会員への通信(総会案内) 2001年5月22日
- 4) 第7回総会の開催 2001年6月17日
- 5) 2001年3月卒業生名簿作成 2001年9月
- 6) 応化会ニュースの発行 2001年10月
- 7) 全会員への通信 2001年10月  
(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求など)
- 8) 在学生への通信 2001年10月

II. 諸会議

- 1) 幹事会
  - 第1回 2001年5月26日
  - 第2回 2001年10月
- 2) 常任幹事会
- 3) 委員会
  - 応化会ニュース編集委員会
  - 企画運営委員会
  - 名簿管理委員会
  - 役員選考委員会 2001年4月21日

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2001年10月
- 2) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2002年3月

平成13年度(2001年)応化会会計予算

一般事業会計	
〈収入の部〉	
	予算額
前年度繰越金	1,508,620-
会費(一般)	3,000,000-
会費(学生)	2,200,000-
寄付金	300,000-
雑収入	5,000-
合計	7,013,620-

〈支出の部〉	
	予算額
総会開催費	550,000-
事業等補助金	200,000-
会議費	200,000-
印刷費	1,000,000-
郵送費	2,000,000-
人件費	500,000-
事務局費	50,000-
雑費	100,000-
拠出金(特別会計へ)	1,000,000-
拠出金(連絡協議会へ)	100,000-
在学生活動援助費	200,000-
振り込み手数料	100,000-
予備費	1,013,620-
合計	7,013,620-

特別会計

〈収入の部〉	
	予算額
前年度繰越金	3,955,052-
拠出金	1,000,000-
名簿売上(一般)	10,000-
名簿売上(学生)	10,000-
名簿荷造送料	10,000-
名簿広告掲載料	0-
雑収入	1,000-
合計	4,986,052-

〈支出の部〉	
	予算額
名簿出版費	0-
名簿荷造送料	50,000-
人件費	500,000-
事務局費	200,000-
予備費	4,236,052-
合計	4,986,052-